

# 第2回協議会を開催しました



(仮称) 碩田中学校区  
**適正配置地域協議会**  
 だより

第2号  
 平成24年11月

**委員のご紹介**  
 の会員を出麻学住  
 でのが議さ衣校吉  
 お委新よれ子P小  
 知員たりた委員A校  
 らとに下ためが所区  
 せな本川智、市属の  
 しり地智、今外の住  
 まま域磋今へ槽吉  
 す。協子回へ榎原  
 た議委の転小

分文一〇月二十三(火)に、大  
 回の午後六時十分から、第二  
 回は、三校協議会を催し、新  
 設した三校の協議会を開催し  
 ました。協議会では、協議会  
 建設の目的、協議会の役割、  
 協議会の運営、協議会の委員  
 会の構成、協議会の開催場所  
 と回数、協議会の費用負担、  
 協議会の報告体制、協議会の  
 連絡体制、協議会の情報共有  
 体制、協議会の活動の場、協  
 議会の活動の目的、協議会の  
 活動の計画、協議会の活動の  
 評価、協議会の活動の改善、  
 協議会の活動の推進、協議会  
 の活動の発展、協議会の活動  
 の成果、協議会の活動の課題  
 などについて、協議会の委員  
 会長の説明が行われ、協議会  
 委員の意見交換が行われ、協  
 議会の活動の計画が決定され  
 ました。協議会の活動の計画  
 は、協議会の活動の目的、協  
 議会の活動の計画、協議会の  
 活動の推進、協議会の活動の  
 発展、協議会の活動の成果、  
 協議会の活動の課題などです。

住吉小学校のPTAが全校の保護者(151世帯)に対して行った、アンケート調査の報告がありました。その一部をお知らせします。

- Q: 3校統合について賛成・反対どちらですか? 賛成131 反対9 未回答11  
 ・3校統合案は不安要素もあるが新しい友達も出来良いかと思われる。また、2校統合案等提案されていたが、残る1校の進学の際の関わりについて懸念の声が上がった。反対意見のほとんどが、場所が遠くなるのでは、反対であるとの意見であった。
- Q: 統合に関して不安はどんな点ですか? (抜粋)  
 ・通学…40m道路の横断、通学路の危険箇所、見守り体制、距離が遠くなる  
 ・学校生活…環境の変化によるストレス、敷地面積が狭くなる、工事中の対応  
 ・その他…地域とのつながり、クラブ活動、子ども会、育成クラブ、避難場所、危険な校舎の放置、母校がなくなる寂しさ、子どもたちの心配にはっきりした態度を示せない

す。十なとにをしにも  
 。一おめま一た戻た  
 月、でた度。っち  
 第二、協皆3ての  
 十三閉議さん統と育  
 日のとたで合の環  
 (の地ない検に意境  
 )域り。証至見と  
 の協ま。しっもい  
 予議したの次経り  
 定会たの次回緯原  
 では。ま回緯点

**第2回協議会における主な意見を掲載しています。**  
(発言内容については、紙面の都合で要旨のみとしています。ご了承ください。)

は委員の発言      は事務局の発言



**【統合の背景に関する意見】**

適正配置の対象となった選定基準として、児童数が今後減少していくことが大きな要因とのことだが、将来推計では平成30年度に現在より児童数が増えている。なぜ適正配置の対象としたのか。

12学級から24学級を標準規模とするとのことだが、推計では平成29年度に3校統合で、27学級となる。3校統合した場合に標準規模の学級数よりも増えてしまう。

検討委員会( )では、「2校統合案」もあったが、基本計画では3校統合となっている。

過去の推計資料を見ると、実際の児童数や学級数とは乖離がある。少子化が見込まれる中、今後も推計を下回って推移すると考える。また、校舎の建築経過年数も一つの基準としている。標準規模の学級数は、国の基準や検討委員会では12～24学級としている。検討の中で将来を見越した時に、2校統合では1校が小規模で推移することを踏まえ、パブリックコメントや市議会等の意見をいただく中で、最終的に教育委員会で3校統合の計画を策定した。

学識経験者、地域関係者等から構成された大分市立小中学校適正配置計画検討委員会(設置期間:平成22年6月～23年11月)



**【3校統合に関する意見】**

3校統合した場合、現在の校舎が失われることが心配である。地域コミュニティの維持の観点からも施設は必要である。3校統合になった場合のビジョンを示してほしい。

現状の3校を改修、あるいは2校統合、3校統合の場合の建築費用等、また3校統合の立地場所等のシミュレーションはしていないのか。3校統合の場合に、現在の教育環境より良くなるというような将来ビジョンを示してほしい。子どもや地域のために、このような施設やシステムを導入するといったビジョンを示し、市役所全体で協議する必要がある。

3校統合は、大分市全体の総合的なまちづくりとの観点に関連してくる。教育委員会が中心となって、市役所全体に総合的なまちづくりとの観点で働きかけが必要である。

新設校の位置は全くの白紙である。なお、計画では本市のリーディングスクール、小中一貫教育のモデルとなる学校を目指し、地震や津波等の防災の観点、地域コミュニティの観点等から、様々な機能を有した校舎を提案している。この協議会において意見をいただいたうえで、具体的なイメージを示すことになると考えている。



**【今後の協議に関する意見】**

検討委員会の報告書を踏まえて策定された計画を基準にしなければ結論が出ない。碩田中学校区全体で、子どもの教育環境をどうすべきかという原点に戻り、検討するのが協議会の役割ではないか。

児童数が減少し学校規模が小さくなり、教育上の弊害が出てきているので、将来的にも抜本的に見直しましょうとのことで、3校統合の考え方が出てきている。そこに一度戻って議論を進める必要がある。

子ども達はクラブ活動等で住吉小、中島小、荷揚町小と交流が深まっている。「いずれ統合になる」と話した時、子ども達は喜んでいる。子ども達の声にも耳を傾けてほしい。



# 防災・小中一貫教育に関する講演会を開催しました

地域協議会では、学校の適正配置に関連して、地域の皆さんの関心が高い「防災」と「小中一貫教育」について、専門的な見地から大学の先生をお迎えし、2つの講演会を開催しました。

9月25日に開催した「防災に関する講演会」では、大分大学工学部の小林祐司准教授を講師として、「災害に対して“しなやか”であるための防災教育とコミュニティ」をテーマにお話しいただき、また、10月3日の「小中一貫教育に関する講演会」では、大分大学教育福祉科学部の伊藤安浩教授を講師として、「小中一貫教育の意義と期待される効果」をテーマにお話しいただきました。

## 1 防災に関する講演会

講演会では、(仮称)碩田中学校区適正配置地域協議会の委員をはじめ、地域の防災を担う自治委員や地域関係者、学校関係者、各小中学校の保護者等67名の方のご参加をいただきました。

講師の小林准教授は、都市計画、都市解析、建築計画等、幅広い分野で活躍をされ、また、被害を未然に防ぐ防災や被害を軽減する減災といった観点からの研究も進めています。東日本大震災を受け、文部科学省が指定して、佐伯市立鶴見中学校で開催された防災キャンプでは実行委員長を務められています。

講演会では、家庭・学校・地域における防災教育の必要性、危険な場所等の必要な情報を集団、社会で共有するリスクコミュニケーションの重要性、そして、これらを正しい知識で理解すれば、「生きる力」が育まれるとの話がありました。

他にも過去の災害の状況、今後の被害想定、前述の防災キャンプなど、実践的な事例もまじえて熱心に講演され、参加者は真剣に耳を傾けていました。以下は、主な質疑応答を記載しています。



防災に関する講演会の開催に当たり、あいさつをする吉田会長

う起域ミフたをがりでほ  
がきが全二、実るるく、いく  
良る全二、実るるく、いく  
いか体テ学社こ場亡想。ま  
ととのイ校会と所くのな区際  
思いにを生ののがのな区際  
ううど考活シ大高つ域に目  
。観うえ等)テムあ避る。が  
点いたやムあ避る。が大  
でう時やムあ避る。が大  
見被に地へる。難。が、震  
た害、域イ 経自、震え  
ほが地コンま路分よ災て

のまが水Q  
かで、想洪  
が大定水  
浸分区  
水市域  
想街が  
定地示  
区では  
域は、  
とどマ  
なるこッ  
るこプ  
るこ浸

に難へ害よるいかキ常方うやな  
変し、時いとウン生に時つい検  
わよ我要とこ感ちグ活提にてと証  
れう々援思るじよコに案逃いいす  
ばとは護う。まにっ|置だけなける  
よかも者でなとスキがらいな取  
い、うはそのり歩と換、れかい組  
とそ少近う検、いしえ避なら、思  
うしくな証本てて、経。いう。緒  
うくビば、しにるどウ路地ざに  
意ヘル、て歩かうオ|を域と何や  
識避 災もけと | 日のいもら

地施Q  
域す避  
での際難  
避難、訓練  
の難、避を地  
考ビ域  
方が学  
は少校  
？ない  
い実



講演を行う小林 祐司 准教授

## 2 小中一貫教育に関する講演会

講演会では、(仮称)碩田中学校区適正配置地域協議会の委員をはじめ、各小中学校の保護者や学校関係者、自治委員、地域関係者等72名の方のご参加をいただきました。

講師の伊藤教授は、教育の方法論に関する研究を進めておられ、平成18年度に設置した「大分市小中一貫教育推進協議会」の委員長を務め、大分市で初めてとなる併設型の小中一貫教育モデル校賀来小中学校の開設に向け指導をいただきました。

講演会では、小中一貫教育の背景として、小1プロブレム、中1ギャップの解消がきっかけとなり、これまでの校種(小学校、中学校等)ごとの独自性の追求という考え方から、異なる校種間のなめらかな接続、連続性、一貫性という考え方に変わってきているという話や、小中一貫教育の期待される効果として、具体的な例をあげながら、人間形成の側面、また学力形成の側面での効果との話がありました。そして最後に、小中一貫教育の意義として、小学校の文化・中学校の文化から、校種間の連携を強める、一貫性を高めることが今の教育の大きな流れの中にある、一過性の流行ではなく、これからは小中一貫が教育問題を考える際の常識的なベースになるとの話がありました。

そして、講演の後は、碩田中学校の伊藤校長先生より、連携型小中一貫教育モデル校である碩田中学校区の取組についてお話をいただきました。以下は、主な質疑応答を記載しています。

がるもたス会知会な心きでがど  
我よなちク、のやのに、も、学  
々うくがラ保こ学は教先あ、あに校  
大に、不ム護と。校分育生。る。とが  
人し新安を者、のかしが、意つ統  
のつしな組、学先るて新新味て合  
努かいくん地校生がくししで大さ  
めり学、で、域、方、れいいはきれ  
で支校と、の教が教。取友チなね  
あえにま子方育重育。組達ヤ変ば、  
る慣どど々委々委心でもン化、  
のれいもで員承員配熱です。だ子

面育Q  
がを3  
あ充校  
る実統  
のす合  
でしし  
はと、  
な、小  
い中  
か一  
？ナ貫  
ス教



講演を行う伊藤 安浩 教授

### 小中一貫教育公開研究 発表会のお知らせ

碩田中学校区 11月13日(火)  
(連携型小中一貫教育モデル校)  
会場:中島小学校  
受付は13:00~13:30です。

賀来小中学校 11月14日(水)  
(併設型小中一貫教育校)  
会場:賀来小中学校  
受付は13:00~13:20です。

にあてでま準貫つにて少ダでし  
変れたこわで教よ4いな1いた4  
えばいのなは育う年るくシう時・  
な、とよい。なでに生よなツとに3  
け皆皆う。くはなのうるプ・  
れのでに要、4。る。子だとを特在2  
ば意合子は6・どが確発に來制  
な識意どど・3。なも、か揮6のの  
らもでの3・おがそにす年学シ  
なそきたシ制2、非の感る生校ス  
い。のたちスで制小常代じ機がのテ  
よのをテもが中にわら会り感ム  
うで育ムか標一育りれが1覚に

そ一発Q  
れ貫揮特  
を教すに  
な育を時  
くを時学  
し導期6  
て入で年  
よすあ生  
いるるは  
のこが指  
かと、導  
？で小性  
、中を

**第3回地域協議会は11月20日(火)開催**  
第3回の協議会は、11月20日の火曜日、午後6時30分から、大分文化会館第2小ホールで開催します。  
第3回では、第2回でいただいた意見等を踏まえ、協議会の規約に関する合意に向けて、協議を進めていく予定です。

(仮称)碩田中学校区適正配置地域協議会だより「第2号」

発行:平成24年11月  
発行者:(仮称)碩田中学校区適正配置地域協議会  
事務局:大分市教育委員会教育企画課  
連絡先:(住所) 大分市荷揚町2-31  
(TEL) 097-537-5903(直通)  
(E-mail) kyoikukikaku@city.oita.oita.jp